

1) フレシマ周辺の主な希少鳥類について

■オジロワシ

ユーラシア大陸北部に広く、ただし局所的に分布する。国内では北海道北部から東部にかけての海岸や湖沼に近い大木上で繁殖し、近年の繁殖つがい数は 150 つがい程度とされている。冬期にはロシア極東部で繁殖した個体も渡来し、600～700 羽が記録されるが、半数以上は道内で繁殖した個体と考えられている。風蓮湖周辺は、多い時には 300 羽程度が越冬する一大越冬地となっている。魚類や水鳥類をおもな食物とし、オオワシ同様に漁業で廃棄される魚類にも依存する。国内での風車への衝突はこれまでに 37 例が知られている。また、オジロワシは 100m 以下の比較的低い高度を飛びながら食物を探すため、発電所周辺に採食地があるとリスクが増大することが知られている。環境省では、平成 22 年から 25 年度にかけ、海ワシ類における風力発電施設に係るバードストライク防止策検討委託業務を実施している。文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省による保護増殖事業計画が策定され、オジロワシ・オオワシ保護増殖分科会が開催されている。国指定天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧 II 類。

■オオワシ

ロシア極東部で繁殖し、おもに北海道東部で越冬する大型のワシ。10 月末から 11 月初めにかけて宗谷海峡を經由して北海道に到達し、1 月から 3 月の厳寒期には知床半島や根室半島など北海道東部の海岸、湖沼に生息する。遡上するサケなどの魚類や水鳥を主な食物としているが、近年は漁業活動中に廃棄される魚類に強く依存しており、根室では風蓮湖などで行われている氷下待網漁で廃棄される魚に集まる。

総個体数は 6000～7000 羽と推定され、近年は 1400～1700 羽が道東に生息する。風蓮湖・春国岱周辺では 1000 羽以上が記録されることもあり、オオワシの一大越冬地となっている。

環境省では、平成 22 年から 25 年度にかけ、海ワシ類における風力発電施設に係るバードストライク防止策検討委託業務を実施している。文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省による保護増殖事業計画が策定され、オジロワシ・オオワシ保護増殖分科会が開催されている。

国指定天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧 II 類。

■タンチョウ

北海道東部に生息する約 1500 羽の渡りをしない個体群と、中国東北部からアムール川にかけて繁殖し渡りを行う個体群がある。道内の個体群は約 350 つがいが道東の湿地で繁殖し、冬は多くが釧路周辺の給餌場に集まる。冬期は人為的な給餌に強く依存している。1924 年に十数羽が再発見されるまで絶滅したと考えられていたが、給餌などの効果で個体数が

回復しつつある。しかし、国内に生息する個体群の遺伝的多様性は非常に低いことが知られている。

日本野鳥の会では、1987年に鶴居村に鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリを設置し、給餌や繁殖地の保護区としての買取りなど積極的に保護活動を行っている。渡邊野鳥保護区フレシマも、タンチョウの繁殖地を保護するために設置した保護区である。環境庁、農林水産省、建設省によるタンチョウ保護増殖事業計画が策定され、タンチョウ保護増殖検討会が開催されている。

国指定特別天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧 II 類。

■シマフクロウ

魚食性の大型のフクロウで、魚類の豊富な河川や湖沼周辺の森林に生息する。海外では、国後島やサハリンの島しょ部にも生息する。明治期までは北海道内に広く生息していたとされるが、森林伐採等による営巣に必要なうろのある直径 100cm ほどの大木の喪失、河川改修などによる魚類の減少により、現在は北海道中部から東部にかけてのみ生息する。国内に生息する個体数は約 140 羽、繁殖つがい数は 50 つがい程度。多くのつがいが巣箱や給餌など、人為的な支援を受けて繁殖している。生息できる環境が限られているため、巣立ち後の分散が困難で、近親つがいの形成などの問題がある。

日本野鳥の会では、2004 年より買取りによる生息地の保護区化、植樹や除間伐など森林環境の整備、生簀による給餌などの保護活動を行っている。環境庁、農水省によりシマフクロウ保護増殖事業計画が策定され、保護増殖検討会が開催されている。

国指定天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧 IA 類。

2) バードライフ・インターナショナルについて

バードライフ・インターナショナルは、各国を代表する 120 以上の鳥類及び自然保護団体から構成され、構成団体のべ会員数は 250 万人、同サポーター数は 1000 万人を超える国際的な自然保護 NGO です。1 国 1 構成団体制となっており、日本からは公益財団法人日本野鳥の会がバードライフ・パートナーとなっています。バードライフ・インターナショナルと日本野鳥の会は日本国内およびアジア地域の自然環境保全のために緊密に協力しながら活動しています。

URL : <http://www.birdlife.org/>

以上